

平成 25 年 10 月 9 日

大学評価コンソーシアム
独立行政法人 大学評価・学位授与機構
京 都 外 国 語 大 学

研修会「自己評価能力を高めるための目的・計画と指標の作り方（ステップ1・2）」
の実施について

内部質保証を機能させるために不可欠な条件として、PDCA を機能させることが挙げられます。そのためには、目標や計画を適切に立てることが重要であり、それができなければ、評価や改善もうまく図れません。現在、それらを解決するためのツールの開発を大学評価・学位授与機構が行っています。

今回は、このツールのうち、最初の2つのステップに関する研修会を企画しました。「課題・問題の分析」（ステップ1）、「目的の整理、計画の作り方」（ステップ2）は、目標や計画を適切に立てるための基本的な知識とスキルセットとなります。

ステップ3の指標の設定についての開発が進んでおり、今年度の大学評価担当者集会の第三分科会での経験を踏まえて、来年2月に大学評価・学位授与機構主催での系集会の開催を予定しております。（こちらへのご出席は、ステップ1・2の受講経験が前提となっております。）

このステップ1・2は、これまで大学評価担当者集会 2012 の第三分科会、今年2月に大学評価・学位授与機構主催で行った研修会で取り扱ってきましたが、今回は演習の題材を改めた形で開催させていただきますので、もう一度受講されても結構です。（講義編はほぼ同じです。）

1. 日時・場所

平成 25 年 11 月 20 日（水） 10：30－16：30

京都外国語大学 11 号館 2F ラウンジ

<http://www.kufs.ac.jp/aboutkufs/campus/access/index.html>

（京都市右京区西院笠目町 6）

2. 定員

定員：30 名（スタッフは含まず）

3. 対象者

自己評価能力を高めるための目的・計画と指標の作り方に興味のある高等教育関係者
（これまでステップ1，2を受講したことある方の受講は特段妨げません。）

4. 参加費

徴収しません。

5. タイムテーブル

10：30～10：40 ご挨拶

10：40～11：30 講義

○ 講義では、ツールの内容を詳しく説明し、午後、実際に演習ができる程度の理解を目指します。
・今回の研修会はステップ1の「課題や問題の分析」とステップ2の「目的の整理、計画の作り方」について取り扱いますので、講義もこちらの内容が中心となります。ステップ3の「指標デザインとデータの整理」にも簡単に触れます。

11:40～11:45 質疑応答・午後の準備

12：50～16：20 演習

○ 演習では、班ごとに架空の大学の事例をもとに課題を整理、分析し、解決に向けた計画を考えます。
・班分けについては、運営をスムーズに進めるために事務局で行います。
・各班にはこのツール開発を行った研究会メンバーがファシリテータとして参加させていただきます。
・各班での演習結果を随時、報告していただき、ツールの運用のコツや留意点、限界などについて全員で理解を深めます。

16：20～16：30 まとめ

6. 申し込み方法

大学評価コンソーシアムの web サイトからお申し込みください。

10月11日（土）13：00からとなります。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php>

7. 問い合わせ先

茨城大学 評価室 助教 畷田 敏行

shimadat@mx.ibaraki.ac.jp

電話：029-228-8572（企画課大学改革係と共用）

京都外国語大学 総合企画室 参事 山崎 その

s_yamaza@kufs.ac.jp

電話：075-322-6710

8. スタッフ

田中 弥生（大学評価・学位授与機構 研究開発部 教授）
浅野 茂*（大学評価・学位授与機構 研究開発部 准教授）
大野 賢一*（鳥取大学 大学評価室 准教授）
小野 宏（関西学院大学 企画室 課長（新基本構想担当））
小湊 卓夫*（九州大学 基幹教育院 准教授）
渋谷 進（鹿児島大学 教育センター 准教授）
寫田 敏行*（茨城大学 評価室 助教）
西村 雄二郎（大阪大学 総務企画部 企画推進課 専門職員）
山崎 その（京都外国語大学 総合企画室）

*大学評価コンソーシアム幹事

参考資料

表1：大学の内部質保証力向上支援ツールの各段階と獲得することが期待されるスキル

	ツールの内容	獲得することが期待されるスキル
ステップ1	関係者（ステイクホルダー）の把握、課題・問題の分析	○自らの大学の現状と課題を体系的に整理する思考方法やスキル ○教育の質向上という視点で、大学の諸活動の中から課題を発見し、その周辺の因果関係の整理を行うことができるスキル
ステップ2	目的の整理、計画の作り方	○目的を体系立てて整理する思考方法、目的の体系図から計画アプローチを見出すスキル ○因果関係を逆にたどることで、課題解決のためのアプローチを考えることができるスキル
ステップ3	指標デザインとデータの整理	○前のステップで考案した課題解決のためのアプローチ（即ち、課題を解決する、という目的に沿った計画）に対して、適切な指標を提案するスキル
ステップ4 [ツール構築中]	効果的・効率的な評価	○評価の目的を明確にし、協力体制を整えること、評価結果を有効に活用するためのマインドセット

表2：各ステップにおける研修内容

(今回の講義はステップ1～3、演習はステップ1と2の内容で実施します)

「ステップ1：関係者の把握、課題・問題の分析」
<ul style="list-style-type: none">・関係者を把握し、大学における諸活動から課題を発見します。課題を複数挙げ、その課題の原因を考えつつ、課題（原因→結果のペア）をグループ化していきます。・途中で、中心的な課題が見えてきますので、それを中心に各グループに関連づけていきます。（中心になる課題をどう設定するかは、グループのメンバーの考え方や、組織の置かれた環境により異なります。） <p>◇これらの作業によって、各課題の因果関係がはっきりするわけです。</p>
「ステップ2：目的の整理、計画の作り方」
<ul style="list-style-type: none">・ステップ1で分析した「原因→結果」を「手段→目的」とリバーサさせることで「こういう原因でこういう課題が発生している」ということが「ここをやれば、この課題が解決できる」という図になります。この図を目的系図といいます。・目的系図は、いくつかの課題をひとまとまりにし、グループ化したわけですが、課題が適切に関連づけされた目的系図があれば、「解決に向けた計画」が見出しやすくなります。 <p>◇課題を原因と結果の因果関係で整理することは、解決と改善のアプローチを見出すための作業でもあるのです。</p>
「ステップ3：指標デザインとデータの整理」
<ul style="list-style-type: none">・改善計画を実施する際の指標を考えます。課題は「目的→手段」という単位で最初に整理をしているので、それごとに指標を考えていけばよいのです。 <p>◇指標が見つければ、あとはその指標が現在どうなっていて、それをどうしたいのか、ということで改善計画を現実化し、それに沿って行動します。ときおり指標を用いて進行管理するのが評価担当者の責務となると思われます。</p>